

海が大好きで若いころは水上スキーの大会にも出場していたという水野義則さん。海上安全指導員を14年務めている。



高台から望む海の風景。NTPマリーナ高浜も今年4月に愛知県水難救済会衣浦救難所支所となった。



釣りが大好きという岡田定夫さん。夏の市民レガッタ大会も審判艇の運行などでバックアップ。



「たかはまの海」その安全を守るひとたち

たかはまが全国屈指の瓦の産地となった背景には、その昔、船に載せて出荷できる海辺のまちという立地条件もあった。海にまつわる思い出話は人それぞれあるはずだ。

「体力自慢の学生時代、流れが速いからと親に止められたにもかかわらず、対岸の亀崎まで仲間3人で泳いだことがあるよ。今思えば危ないことをしたもんだね。」と根っからの海好きらしい思い出話は水野義則さん（八幡町）。現在は海上保安庁から委嘱を受け、たかはまの海をパトロールする「海上安全指導員」だ。平成26年には海事関係功労者として表彰された。「私が承知する海上事故は年間10件ほど。最多はエンジントラブルだが、海上には何も無いと思いつむのか暗礁に乗り上げる事故もある。ただ、近年はマナーも向上し、安全への意識が高まってきたと感じる。」と話す。

また、違法係留対策や海上航行安全のほか海岸清掃などの活動をしているボランティア団体「NPOポート高浜」は、夏は市内の親子、秋は姉妹都市の瑞浪市の親子を対象に「クルージング交流会」を毎年開催している。理事長の岡田定夫さん（田戸町）は「参加者がとても喜んでくれるのが嬉しくて続けている。海から見るたかはまを、できるだけ多くの地元の子どもたちに知らせたいし、海は楽しいことと危険なことを併せ持っていることを伝えたい。」と語ってくれた。

7月17日は海の日。海は、たかはまの自慢のひとつ。そして「たかはまの海を守る」ひとたちがいることも忘れてはならない。

“撮っておき” の たかはま

【第85回】

「ひと」「もの」「文化」などなど、
有形・無形を問わず、
高浜市の日常の暮らしの中にある
とっておきの「お宝」を紹介します。

高浜を愛し、高浜の良さを学んで高浜でたくましく生きる未来市民の育成

「学校」「家庭」「地域」が一体となって子どもたちを育てため、「高浜市が育てていきたい子どもの姿」をこのコーナーで紹介していきます。

7月〈読書に親しむ子〉

- 〈めざす年長児〉 えほんをだいすきになります。
- 〈めざす小6生〉 自分に合った本を見つけて、読書を楽しみます。
- 〈めざす中3生〉 さまざまな本を読むことで、自分の世界を広げます。



高浜市が育てていきたい生活習慣・学習習慣育成プロジェクト
いきいき広場内教育センターグループ ☎52-1111（内線311）

LEIA A
PÁGINA EM
PORTUGUÊS!

ポルトガル語は22ページ

早期配布にご協力ください。